

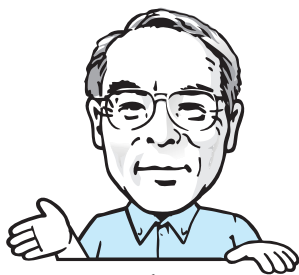
## 「中越地震の山古志村をみて」

先日（7月20日）、新潟中越大地震の被災地、旧山古志村（今年4月から長岡市）を視てきました。

今なお通行止めで住民は住んでいません。緑の山中に口をあけたような赤い地肌が無数に見えます。山が崩れ、棚田が滑った場所です。谷間の川や道、田、畑は土砂で埋まって、倒木や電柱が横たわったまま。

「突然、すべてのものが停まり、村内の状況把握ができない、道路も通信設備も使えない、対策本部は夕方あせるだけ、山間地の生命線は道路であり通信網である」（旧山古志村村長の話）

辺地や山間地には災害に強い道、複数の道が必要だと痛感しました。被災地の復旧はまず道路から、と国直轄で行なわれていますが、川や農地、住宅はこれから……。崩れた山は雨のたびに傷口を広げ、危険性が高まります。



七尾市長 平 元 文  
武

錦鯉が泳ぎ、棚田に稲穂がゆれる日はいつ来るのでしょうか。気の遠くなる復旧作業が待っています。

長岡は戦災で焼野原となりましたが立派に復興しました。また、「米百俵」の逸話でも知られています。戊辰戦争で敗れた長岡藩の財政窮乏に対して贈られた百俵の米を「百俵の米も、食べればたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」と、米を売り教育費に当てたというものです。

長岡市は、この「米百俵の精神」を更に高めるため長岡市米百俵財団を設けて、青少年の海外留学制度や、育英資金、東京の学生寮設置等をして将来のための人材の育成、教育に力を入れています。

震災で破壊された旧山古志村の復旧工事は緒にたばかりですが「米百俵の精神」で立派に立ち直ることでしょう。その取組のなかで、人の和が強まり、知恵が生まれ、新しい時代に積極的に立ち向かっていく人材が育つことは間違いありません。「復旧は新しいまちづくり」創造的復旧（復興）をめざす被災地の方から学ぶことの多い1日でした。

「勉強は自分のため、教育は人のため、人のために生きるとみんな幸せになる」（米百俵賞受賞者カーナのアウン二ーさん）

市長へのメール「前略市長さん」(<http://www.city.nanao.lg.jp/shicho/index.html>)では、市民のみなさんからのご提言、ご質問などをお待ちしています。

## 「市長への声」

【お寄せいただいた「声」】

子どものための公園を！

私は子育てを始めて3年、七尾に移住してきて2年半になる主婦です。夫の仕事の関係で各地を転々としていますが、こんなに子育てに優しい土地は七尾だけだと思えるほど安心して育児に専念しています。ですが、一つ欲を言うならば、七尾には「公園」が足りません。いくら保育園を午前中に開放しても、児童館や児童センターなど専門の方の話を聞ける場所を提供されても、親としては晴れた日には外で元気よく走り回ってほしいものです。

希望の丘公園はともかく遊具も充実していますが、気軽に行くには遠すぎます。また、小丸山公園は高台にあり薄暗く、ひげ人氣がないので、母一人子一人で遊ぶのは心細いものです。また、どちらもトンビが子どものお菓子を狙っているのでピクニックということもできません。

砂場、ブランコ程度の小さな公園でかまいません。市のあちこちにできれば、子どもたちが元気に外で走り回る、子育てには最高の市になると思います。  
(女性から)

読ませていただいております。

### 回答

中心市街地及びその周辺部には公園が少ないことから、平成14年度には一本杉、平成15年度には矢田新町、平成16年度は橘町に「緑と子どもの広場」の整備を地域住民との話し合いの中で進めております。

現在、砂場やブランコの設置については、犬・猫回虫卵での感染問題、遊具による事故発生などの問題もあり、いずれの箇所にも設置はしていません。ご意見は参考にさせていただきます。また、七尾美術館横に西部1号児童公園がございます。一度訪れてみてはいかがでしょうか。トンビ被害については、弁当を広げる時は、出来るだけ木陰など上空から見えにくい場所をお願いできたらと思います。

☎男女参画まちづくり課

☎53 1112

### 市長談話室

8月下旬・9月上旬は開催いたしません。